

1 学校教育目標	
<p>学校教育目標 生徒の個性を尊重し、伸ばし、一人一人の夢の実現を図る。</p>	
<p>綱領</p> <ul style="list-style-type: none"> — 自主積極研学の道に邁進しよう — 気節を尚び、礼儀を重んじよう — 質実剛健を旨とし、勤労を愛しよう 	<p>校訓</p> <p>「自主」「礼節」「勤労」</p>
<p>県教育委員会各課の本年度の教育指導の重点及び取組の方向を踏まえ、本校の「綱領」並びに「校訓」の精神を柱とし、松高スピリッツ（品性を磨き、感性を高め、徳性を養うことで、明るく生き生きとした活力あふれる生徒を育成する。）の具現化に向けた教育を実践する。</p>	

2 本年度の重点目標	
1 生徒の健全育成	
<p>(1) 生徒指導方針の共通理解及び全職員協力体制により、生徒の基本的な生活習慣を確立し、規律ある生活態度を育成する</p> <p>(2) 挨拶の励行・整った身なりの指導に取り組み、社会人としてのマナーを育成する。</p> <p>(3) 人権尊重意識の高揚に取り組み、家族を大切にする、友人に優しくするなど他人への思いやりの気持ちを育成する</p>	
2 基礎学力向上の推進	
<p>(1) 教職員が、生き生きと主体的に学ぶ姿勢を維持する</p> <p>(2) 自ら課題を見つけ、解決に向けて協働して取り組む探究的な学びを推進し、教科を横断した「学び」への意欲を向上させる</p> <p>(3) 主体的・対話的に考え抜くことで、深い学びとなる授業を創造する</p> <p>(4) 様々な教育活動において、「学びの手段」としてのICT活用を推進する</p>	
3 進路指導の充実	
<p>(1) 生徒一人一人の能力・適性等に応じた指導を徹底する</p> <p>(2) 大学入試・公務員試験・就職試験などに対応できる基礎学力指導に取り組む</p> <p>(3) 将来の自分の生活設計が見通せるような資料の提供や、教師自らの体験談を日常的に語れるHR活動に取り組む</p>	
4 本校への入学者を増やす取組	
<p>(1) 学校説明会等の強化促進と情報発信（HP、LINE、マスコミ等）の工夫に取り組む</p> <p>(2) 地域の行事やボランティアへの積極的参加により、地域連携を強化する</p> <p>(3) 松橋高校だからできる各学科の魅力づくりに取り組む</p>	
5 組織的に動く指導体制	
<p>(1) 松橋高校のためにどうすべきかを考えた学科間の連携強化に取り組む</p> <p>(2) 危機管理（起こさない取組・起こった後の対応）は、「チーム松高」として組織で統一してあたり、特に初動対応は、重点的に取り組む</p>	

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	教育方針に基づいた、学校教育目標の達成及び業務改善の推進	学校活性化のための特色ある教育活動の展開	○本校の教育活動の特色化及び中学生や保護者に向けて、情報発信が十分になされ、「変化」と「期待」が学校内外で感じられ、最終的には志願者が増加する状態	①各学科間が連携した「チーム松高」として、地域との連携を強化し、本校の魅力化を推進し、学校活性化に繋げる。 ②広報する機会を増やし、広報内容の充実を図って、	C	○県教育委員会の熊本スーパーハイスクール構想のもと、「クリエイトハイスクール（地域課題解決型）」に指定された。「松高フードコート」～松高生が宇城の多彩な食材で持続可能なまちを創造する～をテーマに、「全学科で取

				積極的に情報を発信する。 ③学校パンフ、学校HPや安心メール、など様々なメディアを活用して各種教育活動の魅力を発信して、本校を積極的に紹介する。		り組む学科横断で探究的な学び」に取り組んだ。宇城市や支援企業、地元生産者と連携・協働し、これまで家政科単独で取り組んできた「高校生道の駅弁」に全学科で取り組むことができた。 ○学校パンフレットの刷新、SNSを活用した情報発信の充実を図ることができた。 ●魅力ある学校づくりと情報発信に努めたが、志願者の増加に結び付かなかった。さらに、計画的な取組が必要と感じている。
	目指す生徒像、学校像の実現	○生徒が主体的に学び、考え抜く教育活動（授業や行事等）を展開している状態。 ○全職員が連携して学校教育目標の具現化を目指し、地域からは学校に対する高い信頼が寄せられている状態	①生徒個々の多様な能力・関心を生かし、協働して課題解決に取り組む探究的な学びを推進する。 ②在籍する生徒が誇りを抱くような教育活動を全教科において展開する。 ③学校行事の際などに、生徒の活躍する姿を見てもらう機会を数多く設ける。	B	○昨年度から構想した探究の学びを学校全体で展開することができた。「松高フードコート」のもと、全校生徒での中間報告会や、文化祭での研究発表、「高校生道の駅弁」等を取り組み、探究の学びを進めることができた。 ○「高校生道の駅弁」の販売会では、宇城彩館を会場に2日間実施、2時間ほどで完売。盛況であった。 ○「松高フードコート」のもと、地元生産者との協働や地元の農作物に注目し、地域との連携や理解を深めることができた。 ○松高フェスタや長距離走大会等の学校行事では、コロナ5類以降に伴い、数年ぶりに一般見学者にも開放する等で、実施することができた。	
学び合い高め合い支え合う職員集団	持続可能な教育活動を目指すため業務改善意識の向上および時	○職員間の意思疎通ができる風とおしよい状態	①職員朝会や運営委員会、職員会議をと	B	○学期中は毎朝、職員朝会を行うことができた。また、運営委員会や職	

	及び働き方改革	間外勤務の削減	<p>○スクラップ&ビルド[※]及びICTの活用で仕事の効率がこれまでより上がった状態</p> <p>○職員がストレスを軽減し、心身ともに健康な状態で教育活動に当たっている状態</p>	<p>の共通理解を図りながら業務を進める。報連相等のコミュニケーションが円滑に行われる組織。</p> <p>②スクラップ&ビルド（会議や打合せの整理・削減を含む）や次年度引き継ぎを意識した取組で、業務のスリム化を進める。</p> <p>③年休などが取得しやすい雰囲気作りや、行事予定の早期の作成を行う。</p>		<p>員会議も定期的に行い、組織の共通理解を図りながら、業務を進めることができた。</p> <p>○職員のストレス軽減等については、校内衛生委員会で学校医を含め、話し合い、対応することができた。</p> <p>○水曜日のノー残業デーの意識付けも行った。4月～12までの勤務時間外の従事時間は、全職員の平均で約30時間であった。</p> <p>○行事予定は適切なタイミングで計画することができている。</p> <p>●職員の担当する業務内容や時期等によって、業務の量や勤務時間外の従事時間が偏る。</p>
		教師としての使命感の向上と資質の向上	<p>○職員が指導力向上のために自己研鑽に努めている状態（不祥事ゼロの状態）</p>	<p>①効果的な実施時期や内容を考え、職員研修を計画的に実施する。</p> <p>②観点別評価や探究活動について、校内研修や視察等による研修を実施する。</p>	B	<p>○職員研修を実施できた。</p> <p>○観点別の評価については、県教育委員会からの情報等を教務部を中心に各教科に提供することができた。</p> <p>●職員研修では、職員の業務経験の段階に応じた研修の実施を検討する必要がある。</p>
学力向上	教師の指導力向上	「分かる」授業の工夫と確立	<p>○主体的・対話的な授業を展開し、生徒の深い学びにつながっている状態。</p>	<p>①一人一台端末の活用を推進し、タブレットの持ち帰りについて検討していく。</p> <p>②授業の流れを示す等、生徒自身が何を学び、習得できたかを確認できる授業作りを目指す。</p>	B	<p>○担任からの依頼を受け長期休業期間等に持ち帰りを許可し、生徒が自宅で学習する機会を確保した。</p> <p>●日常的に持ち帰ることを前提としたルール等を検討していく必要がある。</p> <p>○2学期に研究授業を行い、お互いの授業づくりを学ぶ機会を設けることができた。</p>
		観点別評価の推進	<p>○定期考査だけでなく、授業中の課題や成果物の評価</p>	<p>○課題や成果物などを評価の材料とし、多面的に生徒</p>	B	<p>○教科主任会を通じて成績評価について検討を重ねることはできた。</p>

			によって、生徒が自ら学ぶ意欲を高めていく状態。	の取組みを評価できるように、評価の時期や基準、またその妥当性について教科会等で検討を重ねて行く。		●職員の共通理解を図る場がなく、手探りの状態が続いているので、担当者の不安が強い。対策として、今年度末と年度初めに校内研修を計画している。
	基礎学力の定着と学習習慣の確立	自宅学習の確立と定着	○日頃から学習に取り組み、自らの目標に向けてそれぞれが進んでいる状態。	①朝自習や朝読書を通して、自ら課題に取り組んだり、知見を広げたりする時間を設ける。 ②スタディサプリでの課題配信等を通して、自宅での学習を促していく。	B	○朝自習・読書は各学年が生徒の実態に応じて取り組みを続けている。 ○教科担当からの課題配信や全学年共通で「終礼課題」配信を行い、生徒の自学支援を行っている。 ●生徒が自分に必要な課題を選択し、取り組めるような支援の可能性を検討する必要がある。
キャリア教育(進路指導)	進路意識の高揚	3年間を見通したキャリア教育の推進	○卒業後の進路選択によって自分がどう生きていくかを考えさせる。 ○社会で生きていくために必要なマナーや自分の考えを伝える力、話を聞き理解する力を習得させる。	進路だより【羅針盤】を発行しタイムリーな情報を提供して意識啓発に努める。 1年次:進路講演会やガイダンスを通じて『仕事や学問』について学習し、また適性検査などを活用して自己を知り、進路選択を行ううえでの材料を見つける。 「出前授業」とおして自分が知らない進路について知ることで進路選択の幅を広げる。 2年次:「進路目標の確立」を目標に、ライフプランニング授業による将来の生き方を考えさせ、学校説明会、オープンキャンパスへの参加を促し、進路ガイダ	B	○進路関連行事は各学年とも予定どおり行うことができ、進路意識の啓発を進めることができた。 ○インターンシップは、希望制にして2年目の取り組みとなったが、参加した生徒は企業研究やマナー学習など積極的に活動した。受入企業の評価が高く生徒自身も進路決定に向けて肯定的な評価をしていた。 ●【羅針盤】を発行できなかった。次年度は、【羅針盤】を含め、ホームページや安全安心メールをとおして保護者が本校の活動や進路情報を確実に見られることが課題である。 ●インターンシップに参加する生徒数を増やすことが継続的な課題である。

				<p>等を実施し目標を明確にする。また、1, 2年次に「インターンシップ」への参加を促す。生徒自身が体験したい実習先にアポイントを取り、事前の打ち合わせから実習まで自主的に取り組むことで主体性を育む。教師は、マナー研修や事前事後の取組み等支援する。「出前授業」をとおして自分が知らない進路について知ることによって進路選択の幅を広げる。</p> <p>3年次:「卒業生を困む会」「企業懇談会」等でより詳細な将来の生き方を選択できるように促し、進路実現を目指す。</p>	
進路目標の達成	進学や就職に向けての早い段階からの取組	<p>○2年生の3学期までには、進学か就職かを概ね決定させる。</p> <p>○3年生の進路実現</p>	<p>①2年2学期までの様々な進路の取組みで進路目標を確立させ、2年3学期に就職希望者（就職がメイン）、進学希望者（小論文がメイン）に目的を持って参加させる。また、合同企業説明会で企業の話をも直接聞き、具体的な企業、業種、職種および進学先を絞り込む一助とする。</p> <p>②3年では、それぞれの試験に向けて具体的な取組を実践し進路実</p>	B	<p>○①予定された進路行事を実施することができ、生徒の感想からも有用な行事となったことが伺えた。3学期の進路行事や進路指導部面談をとおして、次年度に向けて良いスタートが切れるように取り組む。</p> <p>○②3年生就職希望者は2月で全員内定した。進学希望者は1月で全員合格、ほとんど総合型選抜、学校推薦型選抜による。家庭の経済的理由で進学から就職へと変更する生徒が複数人いたものの全体としては概ね順調に進路が決定した。面接対策、</p>

				現へとつなげる。		小論文対策、課外授業、個別添削など進路実現に向けてサポートができた。 ●②今年度から全県下で朝の課外授業が廃止された。今年度は3年生が高校総体後の夕課外を実施し、学力向上を図ったものの本校生の受験形態の変化と学力差の大きく一斉指導が難しい状況を鑑み、次年度は個別指導での対応を考えている。
生徒指導	「松高マナー」の涵養	正しい制服着用、元気な明るいあいさつ、正しい言葉遣いができる	○校内外を問わず、正しく制服を着用し、明るいあいさつができる。	①定期的に服装指導を行い、身だしなみの意識の涵養を図る。 ②朝から正門であいさつ運動を行う。 ③学校生活全般において、タイムリーに指導する。	B	○定期的に服装指導を実施することはでき、制服に関しては正しく直用している様子が見られた ●頭髪にかかわる指導は多かった。
	交通指導の充実	毎月の交通安全呼びかけの運動	○交通安全の日を活かしながら、交通委員が全校生徒に対して交通安全の呼びかけを行う。 ○ながらスマホ根絶等のマナー向上を訴え、外部からの苦情をなくす。	①交通安全の日（毎月10日）に、教師と交通委員で啓発活動を行う。 ②特に自転車・原付通学生は交通ルール、天候や道路状況、車両の特性を理解して運転するように、定期的に指導する。	B	○毎月、交通委員を中心に交通安全の啓発活動ができた。 ●自転車の軽度の交通事故が6件起きた。 ○交通にかかわる地域からの苦情は2件であった。
		二重ロックの徹底	○全校生徒への呼びかけ運動を継続して行い、常に二重ロックの施錠率を毎月80%以上にする。	○毎月の交通安全の日にチェックをし、啓発活動に努める。また、チェックしない日の施錠率を上げる呼び掛けをする。	B	○2学期以降、毎月のチェックは出来た。 ●施錠率が目標値に届かなかった。

	生徒会活動と部活動の活性化	部活動加入の奨励と各種大会やコンクール等への積極的な出場	○生徒会が中心となって松高フェスタの企画・運営及び校則の見直しに取り組む。	○企画運営のために、定期的に話し合う時間を設ける。その際は生徒のみで話し合い、担当職員は助言する形で進める。	B	○生徒会執行部の話し合いを定期的かつ昨年度より多く実施し、学校行事や校則の見直しに取り組むことができた。 ○松橋西支援学校高等部の生徒会との交流を月に1回程度行うことができた。
人権教育の推進	人権意識の涵養と差別意識の解消	教職員の研修の充実と推進体制の機能強化	○管理職の指導により、人権教育主任が役割を自覚し、各部・学年と連携を図り取り組む。 ○校内外研修の充実を図る。	①人権教育推進委員会を中心に、人権学習LHRなど様々な取り組みを発信する。 ②同和問題の解決を中心に据えた校内研修を実施し、職員の人権意識を高める。 ③校外研修に積極的に参加し、その成果を復講する。また、レポート研修を実施する。	B	①人権教育推進委員会を週に1回開き、人権行事や人権LHRの質の向上が図れたが、さらに多くの意見を汲み上げる手段が課題である。 ②同和問題を中心に据えた校内研修は実施できたが、知識面だけに偏りがあるため、人権意識の高揚に課題が残る。 ③校外研修、校内レポート研修とともに、全職員で取り組むことができたが、復講等による定着手段に課題が残った。
		生徒の人権学習推進	○全教育活動に於いて、人権教育の視点を持ち取り組む。 ○人権教育LHR、人権週間における取組を計画的に行う。	①主に人権学習LHRを通して、身近な人権問題や同和問題などの社会的課題に至るまで学習し、反差別の実践的な態度を養う。 ②自分とは違った考え方を尊重して相手を大切にしたい思いを持つ。	B	①各学年のLHR、人権週間、人権講演会により、人権意識の高揚に取り組めた一方、反差別の具体的な行動を示すまでに至っていない課題がある。 ②人権LHRや人権講演会により、多様性を認めあえる学習が行えた一方、日常生活における言動にまで意識が届いていない課題がある。
	特別な支援を要する生徒への個に応じた支援	職員の理解と意識の向上	○特別支援教育・高校通級(LST)・インクルーシブ教育システム、学校でのUD化についての理解を深め、スキルの向上を目指す。	①「生徒理解研修」時に、LSTの説明や授業の様子等を説明する。また、外部からの視察時をチャンスにより多くの職員のLSTの授業参観・参加を促進する。	B	①○「通級による指導」の視察の時には、昨年度より多くの先生方に参観していただくことができた。 ●参加される先生方が固定化されているため、工夫が必要。 ②○年度当初の職員会議で、本校で

				<p>②松橋高校での「スタンダード」を作成し、職員間で共有することで、理解を深め、教科担当者会を実施したり、研修時に 教師自身が振り返りをする機会を作ったりした。</p>		<p>の特別支援教育や教育相談について詳細を記したものを提示した。○UD化教具の使用の推進を図った。○10月の職員研修で県の学びのUD化チェックリストをもとに、UD化14項目についてセルフチェックを実施できた。</p>
	<p>支援を要する生徒への個に応じた適切な指導の充実</p>	<p>○支援を要する生徒の理解を深め、個に応じた支援を推進する。 ○生徒、保護者の教育的ニーズを理解し、合理的な配慮を行う。 ○インクルーシブ教育システム構築に向けた取組を行う。</p>	<p>①新入生についての「第1回生徒理解研修」熊本県が定めるガイドラインに沿って、個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成し「第2回生徒理解研修」を行う。また、「第3回生徒理解研修」において支援の評価を行う。 ②週1回、総合支援推進室会議を開催し、生徒の情報共有・支援策の検討を行い、必要に応じて生徒や保護者がスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの支援を受けられるようにする。 ③生徒本人や保護者より合理的な配慮についての申し出があった際には、校内で検討し特別支援教育支援員が学習支援や健康・安全確保等を行う。</p>	B	<p>①○個別の教育支援計画・個別の指導計画については、熊本県が定めるガイドラインに沿ったかたちで作成し、研修を行うことができた。また、特別支援教育コーディネーターが三者面談等に同席し、合理的な配慮についての説明や支援策の提案等ができた。○教科担当者も交えて個別の指導計画の作成を作成していただくことで、担任・副担任の先生方だけでなく、各教科担当の先生方にも生徒の状況を知っていただくことができた。○個別の指導計画をもとに、教科担当者会を開いた。先生方の御協力のもとスムーズに実施でき、各先生方が支援を必要とする生徒の観察や手立ての実施をされており、共有ができた。 ②○「総合支援推進室会議」を週1回開催し、生徒の支援策検討や専門家へ繋ぐことができた。学年、クラス担任、他部署（生徒指導部や教務部など）との連携も行うことができた「生徒支援推進委員会・特別支援推進委員会」では、LSTの受講に</p>	

					<p>関する制度、評価等を主に議論し今後に向けての改善点を見つけることができた。○日々変化する生徒情報の共有は、IPメッセージ等を利用して細やかに実施した。また、必要時にはSC、SSWの協力を得ながら、専門機関や医療機関との連携を行った。</p> <p>○③○特別支援教育支援員が配置され、教室移動の支援や昼休み中の見守りを含めて、きめ細かな支援ができた。状況に応じて、特別支援教育支援員の配置を変更しつつ対応ができた。</p>	
	命を大切に する心を 育む指 導	自他の生命を尊重する心の育成	<p>○「心のきずなを深める月間」の取組を行う。</p> <p>○「ストレス対処教育」を全学年で行う。</p>	<p>①月間の周知と涵養</p> <p>②心のきずなを深めるための標語づくり</p> <p>③心のきずなを深める詩や書籍の紹介</p> <p>④1年「私の四面鏡」「二者択一」2年「さわやかな自己主張」「月からの脱出」3年「アンガーマネジメント」の実施</p>	B	<p>①○「心のきずなを深める月間」に過去の生徒作成した標語を各クラスに掲示し、月間の周知を図った。</p> <p>②人権推進委員会と連携し、全校生徒による標語の作成を実施した。</p> <p>③「助けを求めること」について考える書籍の紹介等を行うことができた。</p> <p>④「ストレス対処教育」については、より本校生に合うように教材を改良した。また、スクールカウンセラーに資料提供や動画に協力してもらうことで、スクールカウンセラーの活用もできた。</p>
いじめの防止等	いじめの未然防止	生徒・職員・保護者のいじめ防止に対する意識の向上	<p>○集会や講演会、研修会を積極的に行い、いじめ「ゼロ」を目指す。</p> <p>○校内のいじめ根絶に向け</p>	<p>①集会や講演会、研修会を行うことで自己肯定感・自己有用感を高め、いじめに負けない集団を作る。</p>	B	<p>○いじめの認知件数が昨年度より減少した。</p> <p>●いじめに特化した集会や講演会を実施することができなかった。</p>

			た体制の充実を図り、学校内の言語環境を整える。	②各教科やホームルーム活動において、現代社会において起った事件等について考える時間を作り、生徒達と向き合う時間を確保する。		
	いじめの早期発見	いじめ早期発見に向けた取組の充実	○心のアンケートなどを活用し、いじめの早期発見に努める。 ○いじめに関する通報（スクールサイン）及び相談機関を生徒、保護者に周知徹底する。	①定期的なアンケートの実施と情報分析をし、職員間での共有を図り、早期発見・早期解決に努める。 ②日頃からスクールカウンセラー等の外部機関とも連携を取り、初動対応を迅速に行う。	B	○アンケートの結果をもとに会議を開き、状況の把握と対応策の検討を行い早期解決に努めた。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の外部機関と連携がとれており、医療機関にも迅速に繋ぐことができた。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	地域活動への参加	地域ボランティア活動への参加	○宇城市や各地区の実行委員会との連携を図り、生徒へ情報を発信する。	○各実行委員会等との連携を図り、企画やボランティア活動へ積極的に参加する。	B	○「高校生道の駅弁」の商品開発について松高フェスタで発表することができた。 ○宇城市主催の「もったいなかレストラン」等の地域の行事に生徒がボランティア多数参加できた。
		地域貢献活動への参加	○各市町村や地域の方々との連携を図り、生徒へ情報を発信する。	○宇城市役所、宇城商工会等との連携、街なか図書館との交流を図る。	B	○宇城市役所と連携し、宇城警察署の地域安全運動の出発式では、演劇部が啓発劇、松高DX部が啓発ポスターの作製を行った。パートナーフェスティバルでのポスター作成や高齢者スマホ教室にアシスタントとして参加し、地域貢献することができた。 ○松橋西支援学校での運動会ボランティアに参加することができた。
	保護者・同窓会との連携	PTA・同窓会行委への参加・協力	○喫緊の課題である定員割れの解消に向け、PTA・同窓会と協力して広報活動や	○学校案内パンフレットを中学生にとって魅力的な形に全面的に改定したり、各	B	○学校案内パンフレットは作成委員会を開き、内容を見やすい形に刷新し、配布することが出来た。来年度

			中学校訪問を行い、入学者増を目指す。	学科の紹介チラシを定期的に作成したりして、各中学校等に配付し学校の取組を周知する。		に向けて近隣中学校に職員が持参することを実施していきたい。 ○学校案内パンフレットに加え、学校行事のチラシ等を中学校に持参し、本校の取組を周知した。
	学校運営協議会の推進	学校運営協議会の開催	○学校運営協議会を開催し、学校の運営に取り組み、地域と一体となった特色ある学校を目指す。	○学校運営協議会を定期的に開催し、メンバーからの意見を聞き、特色ある学校づくりにつなげる。	B	○幅広い広報の在り方等をはじめとして、学校運営協議会の委員の皆様からの御意見を、職員間で共有し、学校の運営に反映するよう努めることができた。

<p>4 学校関係者評価</p> <p>○保護者のアンケート回答で、「入学させてよかったと思う」の肯定的回答の割合が非常に高いことは、松橋高校の取組が保護者から高く評価されている証である。</p> <p>○先生方の日常、学級、学年、進路指導、生徒指導におけるきめ細かな対応がなされていることが理解できた。学力差が大きい中、個々の特性、学力に応じて進路指導がなされていることも理解できた。</p> <p>○学校の教育活動の取組は、素晴らしい。地域との連携、情報の発信、生徒個々の頑張り、進路状況等、学校の取組としてやれるだけのことはなされている。</p> <p>○地域連携推進委員会がとても大きな役割を果たしていた。行政や地域と連携を取り、広報を利用して生徒の意識が変化したのではないか。机上の学びだけではなく、人や社会との関わりの中で学ぶことが本校の強みとなると感じる。</p> <p>○総務部におけるPTAの豚汁作りは、コロナ禍で今年度も実施できなかった。次年度は実施したいと考えており、PTA役員内でもその意識作りをしていきたい。</p> <p>○高P蓮中央地区の幹事校として、今後も学校と連携を密にして取り組むことができた。</p> <p>△自然環境問題が引き起こす様々な災害、感染症問題、また国家間の侵略など何が発生するか不透明な時代。討論できなくとも新聞や報道から感じたことなどタイムリーに話す習慣を付けて自分の意見がはっきり言える人に育ってほしい。また、男だから女からではなく、一日の人間として社会で交流しながら360度から物事を捉え考えることができる人として成長することを期待するし、そのような教育に取り組んでほしい。若い感覚で世の中を変えていくような松高生であってほしい。</p> <p>△学び直しが必要な生徒がいる中、個別対応が求められている。焦点をどこに置くか、誰1人取り取り残さないことが公立学校の使命であり、困難さを伴うものだと考える。</p> <p>△元気な声で明るい、笑顔の挨拶は、人としてのマナーなので習慣化していくことが大事である。</p> <p>△成人年齢が18歳に引き下げられ、現実の大人の社会に踏み出す卒業生には社会の現実、法律、契約、金銭問題等、様々なことについて一応の教育が必要となってくる。</p> <p>△特別支援教育が必要な生徒が増加傾向にあるが、松橋西支援学校高等部との連携、教員の研修等に取り組みが必要となる。</p> <p>△志願者の激減で学校の対応も大変だと思うが、中学校の進路指導とも連携が必要。</p> <p>△生徒募集について、定員割れは仕方ないとしても、更に進む現状を阻止する具体的な方策を考えてほしい。</p>

<p>5 総合評価</p> <p>昨年度までの評価項目を各部署で点検し、本校の現状、時代や地域のニーズに合わせるため、目標、方策、そしてアンケート項目に取り組んできた。アンケート自体も昨年度までのマークシート回答からICTを活用した回答方式に変え、比較分析がしやすいようにしており、次年度以降もこの方式を継続したい。</p> <p>評価結果については、概ね好意的な評価であったが、「自宅学習の確立と定着」、「部活</p>

動加入率の向上」「地域貢献活動への参加」等に関して、評価が低かった。今後はコロナウイルス感染症の影響が少なくなり、改善することを目指したい。本校ICTの環境や研修が進んだのも今年度の大きな成果である。ICTを活用した学習だけでなく、教職員の授業改善と業務効率化を進めることができた。それが生徒・保護者、そして職員のアンケート結果にも表れていた。

6 次年度への課題・改善方策

【課題】

- ①本校の魅力の確認とその情報発信
- ②基礎学力の定着と学習習慣の確立
- ③部活動の活性化
- ④地域ボランティアや貢献活動への参加

【改善方策】

上記①～④は、本校の生徒・職員が課題を意識し、一つ一つ丁寧に取り組むことで、課題の解決に取り組んでいきたい。

- ① については、今年度模索しながらも進めてきた取組（松高フードコート構想、探究学習、one team事業など）を継続し、情報発信を宇城市内に留まらず、市外の小中学校にも発信する取組を進めていく。
- ② については、1人1台端末を活用した授業改善や観点別評価を意識した授業改善をさらに進めるとともに、生徒には学ぶことのおもしろさ、学ぶことの意義、そして主体的に学び続ける大切さを教務部、進路部を中心としながら各学年部で取り組んでいきたい。
- ③ 松高DX部は、eスポーツ、デジタルボランティア、デジタル防犯等、生徒のICT技術向上のみならず地域貢献にも携われる機会を提供する部活動である。今後も地元宇城市や宇城警察署と連携を中心に幅広く活動し、発展に取り組んでいきたい。
- ④ 今年度も、様々な制限がありながらも生徒・職員が可能な範囲で地域貢献活動に取り組んできた。次年度も感染状況を考慮しながら、精一杯取り組んで、『宇城の人材を育てる松橋高校』に取り組みながら、地域での生徒自身の学びや、自己肯定感、達成感を高めていきたい。